



# あすなろだより

2016年11月30日

発行 三重県立<sup>こども</sup>心療センター あすなろ学園 広報担当  
〒514 0818 三重県津市城山1 12 3 TEL.059 234 8700 FAX. 059 234 9361  
MAIL: asunaro@pref.mie.jp URL: http://www.pref.mie.lg.jp/ASUNARO/HP/

～さようなら！あすなろ学園 カウントダウン号～

## 第23回 あすなろ学園シンポジウム を開催しました

2016年8月26日（金）三重県総合文化センター中ホールにおいて、「三重県における地域子育ての歴史と未来」と題したシンポジウムを開催いたしましたところ、教育関係及び医療・福祉・行政関係の方々を中心に450名の方にご参加いただきました。

基調講演の内容を一部ご紹介いたします。



【第1部 基調講演】 講師：清水将之先生 三重県特別顧問（子ども・家庭局）

演題：「子どもは育つ ～育ちの道には個性がある～」

- ・育ちは、それまでできなかった能力、技能ができるようになること。育ちのテンポは人さまざまで、身体だけでなく心や技能なども個人差があり、その子らしさを抜きに考えてしまいがち。家族の中での人間関係の経験や、DNAによって規定された部分もある。努力だけでできるということではない。
- ・子ども臨床（児童精神科）、学校臨床、臨床心理など、どの領域であれ、子どもの問題を理解し援助するとき、眼前の出来事だけを見ていると、失敗する。
  - 子どもの日常生活事情（暮らしの背景）をしっかりと見つめる
  - 今日までの子の育ちのプロセスをきっちり読むこと、が大切
- ・このようにすれば子どもがうまく育つという方法はない。親（治療者）の思いを子どもに押し付けない。見守ることの厳しさを味わうのは親（おとな）の責務。
- ・育児、教育保育、治療の場で目の前のことに振り回されることはやめ、10年後のこの子の姿を想像する、そんな余裕を持って対応する。

【第2部 シンポジウム】

児童精神科医・市こども家庭支援業務に携わっているの方々より、「子ども達の未来を語る」と題して、それぞれのお立場から『あすなろの現状やこれからどうあるべきか』『あすなろのノウハウを地域でどう生かしていくか』『連携についての課題』など、日々の取り組み内容や課題について発表いただき、今後のあすなろに求められているものや、来年度新たに設立される《三重県立子ども心身発達医療センター》の課題等について討論いたしました。

～ あすなろ分校での取り組みをご紹介します！ ～

## 「原籍校復帰支援プログラム」の運用について

津市立高茶屋小学校あすなろ分校  
津市立南郊中学校あすなろ分校

あすなろ分校（以下、分校）は、広汎性発達障がい等の治療のために、あすなろ学園（以下、学園）に入院した児童・生徒のための津市立の学校です。

退院を視野に入れ、治療の進捗状況に応じて、一定期間分校に籍を置きながら試験的に原籍校に登校する「テスト通学」という教育活動は、分校・学園にとって重要な取組の1つになっています。

入院した子どもは、学園で治療を受けていますが、これは、子どもが自己の特性を理解し、様々な場面に適した行動様式を身につけ、より生きやすくなることを目的としています。我々分校教員の役割は、学校における行動面、学習面において、子どもの特性に応じた適切な支援方法を見出し、成長を促すとともに、原籍校に具体的な指導法や配慮事項を伝えていくことにあると考えます。

分校では、年3回の原籍校交流会と関係者会議（医師、学園職員、原籍校教員、行政機関職員等によるテスト通学実施の相談や退院に向けた調整会議）において、原籍校と連携を図ってきましたが、子どもの置かれた状況がより複雑化する中、これまでの方法では対応しきれない状況になってきており、より実効力のある原籍校との連携が必要になってきました。

そこで、これまで分校が学園と取り組んできた、ケースカンファレンス（医師、学園職員、分校教員等で毎月開かれる会議）や関係者会議での分校の役割を整理し、分校の子どもたちが原籍校にスムーズに復帰できるよう、原籍校で具体的な支援が有効にはたらくような分校独自の支援システム「原籍校復帰支援プログラム」を構築しました。主な内容としては、以下の3つになります。

1. 「テスト通学」における配慮事項を整理し、具体的な支援の内容を検討する。
2. 分校と原籍校の連携の方法を整理する。
3. 必要に応じ、分校教員を原籍校に派遣して具体的な支援に取り組む。

平成26年度から、本プログラムを試行してきたことにより、分校と原籍校がより連携を深め、これまで約30校における「テスト通学」を成功させ、退院を経て、原籍校で順調に学校生活を送ることができるようになりました。

平成29年度の学園の「三重県立子ども心身発達医療センター」への移行に伴い、昭和42年に分教室として教育活動を開始しおよそ半世紀にわたり、入院した児童・生徒の教育を担ってきた「分校」は、「三重県立かがやき特別支援学校あすなろ分校」として再スタートすることになります。

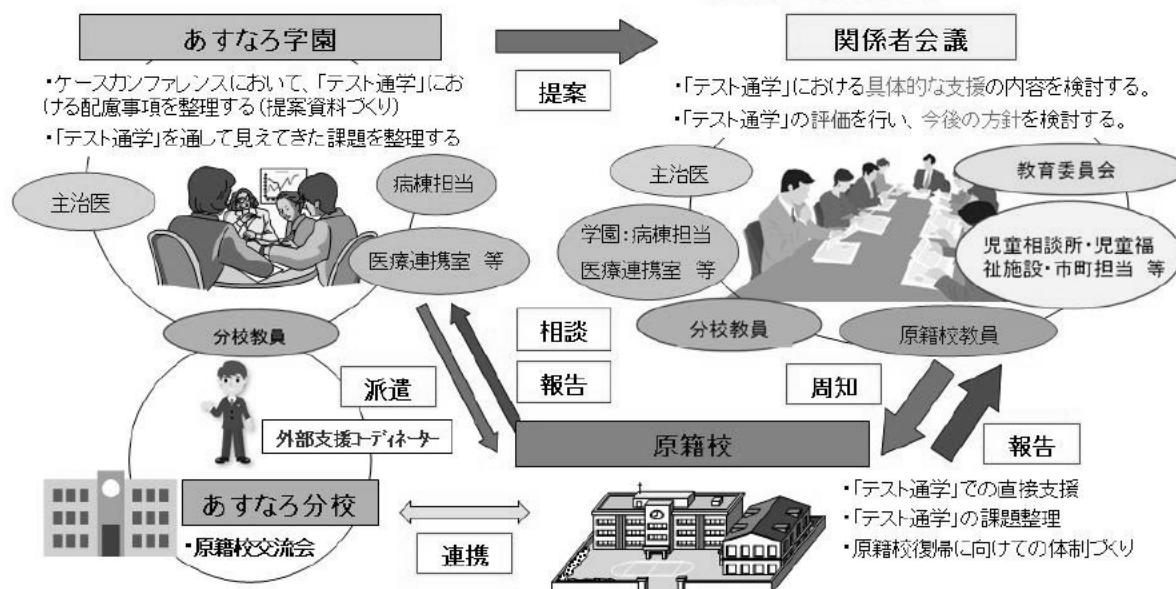
新しい学校になっても、これまでの取組を継承・発展させ、在籍する児童・生徒一人ひとりが、自己肯定感を高め、生活を立て直し、自分に適した進路を選択して生きていけるよう、新医療センター、原籍校、家庭、地域、行政機関等と連携を密にした途切れのない支援、具体的な支援に基づいた教育実践に取り組んでまいります。



## 原籍校復帰支援プログラム

**目的** 分校在籍生徒が、原籍校に復帰できるよう、原籍校とともに具体的な支援に取り組む。

- 内容**
- ①「テスト通学」における配慮事項を整理し、具体的な支援の内容を検討する。
  - ②分校と原籍校の連携の方法を整理する。
  - ③必要に応じ、分校教員(外部支援コーディネーター)を原籍校に直接派遣する



## あすなろ キャンプ & 学園祭 報告

当院では、子どもの発達に見合った遊びを取り入れた活動を企画・運営する取り組み“あそび臨床おもしろクラブ”を行なっており、『治療キャンプ』や『あすなろ学園祭』などはその活動の一貫です。“あすなろ学園”としては最後の、キャンプ&学園祭のご報告です。

### キャンプ

2016年8月3日～5日の2泊3日で、三重県三重郡菟野町の朝明ヒュッテキャンプ場に行ってきました。今年は、“非日常的な自然環境の中で、あそびを取り入れた様々な健康的体験を通して達成感を味わう”、“同年代の子どもたちとの集団活動を通して、対人関係スキルを身につける”ことを目標とし、入院中の中学生9名が参加しました。



天候に恵まれ、予定していた屋外での川遊びやマスのつかみ取り、ウォークラリー等キャンプ地の大自然を利用したダイナミックな活動を展開することができ、子どもたちの満足感溢れる生き生きとした姿がとても印象的でした。

その中でも、最も思い出深いのが御在所岳登山です。かなり険しい山道だったため、途中、何度も諦めそうになることもありましたが、しかし、そんな時には、「頑張ってみんなで一緒に頂上を目指そう!」と、自然と子どもたち同士で鼓舞し合う姿が見られました。結果、2時間かけて見事全員が頂上まで辿り着くことができ、大きな達成感と喜びをみんなに分ち合うことができました。

キャンプのメインイベントとも言えるキャンプファイヤーでは、各グループの歌やダンス等の趣向を凝らしたスタンツに会場は大いに盛り上がりを見せました。人前に立って発表することのプレッシャーは大きかったと思いますが、その分、やり遂げた後の子どもたちの表情は、晴れ晴れと自信に満ちていました。

今回のキャンプでの沢山の貴重な経験を通して、子どもたちは一回りも二回りも大きく成長したように思います。

## 学園祭

2016年10月23日、あすなる学園祭を開催しました。来年度の新センター移転に伴い、城山地区での学園祭は今年で最後となります。

プログラム内容としては、全員が一緒になって踊る『よさこい』や中学生太鼓グループによる演奏、各病棟別の舞台発表などに加え、飲食店やフリーマーケット、あそびコーナーや作品展示コーナーなどの催し物もありました。



子どもたちは、8月頃から作品作りや掲示用のポスター作成等の準備に取りかかってきました。9月頃からは各病棟でのよさこい練習も始まり、夕方になると、よさこいの軽快なリズムに合わせた子どもたちの活気溢れる声が聞かれるようになりました。10月に入ると全病棟揃っての全体リハーサルが繰り返し行われ、学園全体が学園祭ムード一色になっていきました。

当日、子どもたちは不安や緊張を抱えながらも、これまでに一生懸命頑張って準備や練習に取り組んできた成果を、学園祭という晴れ舞台で存分に発揮させることができました。沢山の観客から称賛を浴びる経験を通して、子どもたちは大きな自信と充実感を得ることができたと思います。

この学園祭で得た経験を今後も大いに活かしていってくれることを、心から期待しています。そして、新センターでもあすなる学園祭に負けないぐらいのパワー溢れるセンター祭が開催できるよう子どもたちと力を合せていきたいと思います。

## お知らせ

三重県立子ども心身発達医療センター開院へ向けて、着々と準備が進められています。

開院は、平成 29 年 6 月の予定です。



写真提供：清水建設㈱

## 外来診療のご案内

\* 診察は完全予約制です。

都合により変更になる場合もあります。

● 予約電話番号 **059-234-9700**

予約電話  
受付時間  
(月～金) 9:00～12:00  
13:00～16:30

(平成 28 年 11 月 1 日現在)

曜日	月	火	水	木	金
1 診	中島	金井		金井	大槻
2 診	大槻	中西	石田	中西	柿元
3 診		中村	西田	西田	
4 診	柿元	中島	中野	大橋	中野